



広報

あくな

＝ 新年号 ＝

No. 300

昭和47年1月1日

編集 阿久根市

発行 市長公室

毎月一回 10日発行 1部10円

昭和43年8月20日 第3種郵便物認可



新春にはばたけ
太陽の子ら

市政発展の礎に

阿久根市長 丹 宗 忠



みなさま、どなたさまもおめで
とようございます。

希望に満ち満ちた昭和四十七年
の新春をお迎えになられたことと
心からお喜び申し上げます。

かえり見ますと、昨年は、世界
にとっても、日本にとっても、わ
が阿久根市にとっても、歴史に残
る忘れることのできない数多くの
できごとが発生しました。

その一つにいままだかつて受けた
ことのなかった未曾有の集中豪雨
災害があります。その災害も着々
と復興へのつちがけがなされてい
ます。これも、市民みなさまの力づ
きによる復興への意欲と、ひたむきな協
力のたまものと深く感謝申し上げ
ます。

ことしも、内外ともに旧に倍し
てきびしい情勢になると思われま

すが、何よりもまず市政に対する
住民の心からなるご協力と信頼を
お寄せくださいます。画期的な
発展と繁栄をなし遂げるために努
力いたす覚悟であることを、ここ
ではっきりと申し上げたいと思ひ
ます。

長い間の願望であった「夢のか
け橋」黒瀬瀬戸大橋もいよいよ二
月着工の運びとなりました。

県が総力をあげて進めている太
陽閣体も、いよいよ本年十月にせ
まってまいりました。

花いっぱい運動をはじめ、まち
をきれいにする市民運動も積極的
に進めてまいります。

これと、明るく、たくましく育
てる太陽の子運動も着々とその成
果もあがりつつあり、体力づくり
のかっこうの場である総合グラウ

ンドも三月には完成します。そし
て、りっぱに国体を成功させるた
めに、計画を立て一念をこめて進
めてまいります。

新港整備も四十八年を完成に一
歩近づけています。

長崎、鹿児島を結ぶ大型フェリ
ー就航について、長崎県および野
母崎町とパイプも通じ、鹿児島県
側もこの阿久根というところで、そ
の準備を進めてまいります。

市民のいこいの場である公園づ
くり、温泉開発も積極的に行ない
老人福祉対策をはじめ青少年育成
地域産業の開発を合わせて、真の
住民福祉の増進と市政発展を推進
してまいります。

年頭にあたり、わたくしの所信
のいつたんを申し上げ、重ねて市
民のかたがたのご協力をお願いす
る次第でございます。

広報三百号発

刊にあたって

昭和二十四年、当時の「ちよう
せい」を発刊以来号を重ねること
三百回、ここに「広報あくね」の
第三百号を発行するに当たり一言
お喜び申し上げたいと思います。

申しあげるまでもなく、民主政
治が、納得と協力の政治といわれ
ておりますように、住民福祉のた
めのいかなる政策も、住民のかた
がたが心から理解し協力するとい
う気運が生まれなければ、真に生
きた行政の成果は望むべきないと
思います。

このようにわたくしたちは市民
みなさまがたに市政の状況をよく
知らせる義務がありまして、編集
の方法や技術にはまだ未熟なところ
やゆき届かない点もあったとは思
いますが、今日までの広報機関
を利用して、市政の赤穂々々姿を
くまなくお知らせするように努力
してきたつもりでございます。

世の移り変わりは激しく、国内
外の政局の変遷はさることながら
本市も二十周年を迎え、大阿久根
市発展への基盤を確立し、市行政
は順調な歩みを続け、暫時隆盛の
方向に進みつつあることは、市民
各位の絶対なる愛市のご協力に外
ならないと思います。

地方自治の今後の運営には財政
問題を主軸としていろいろ困難が
予想され、前途もなかなか容易で
ないと思われませんが、本市の発展
を期するうえにおいて、市民みな
さまと心をつなげて、さらに、
いっそうの成果を進展させるため
慎重な計画を立て、じゅうぶんな
検討を加え、市民の福利増進につ
とめ、諸施策について懸命の努力
を傾注いたす所存であります。

ここに広報三百号の発行の喜び
にあわせて、民主的市政の運営が
さらに進展いたしますよう衷心よ
りお願い申し上げます。

いま燃えようとしている火がある

★火気使用器具の安全な取り扱いと使用後の点検

★就寝前・外出時の火の点検

★バケツいっばいの水のくみ置きと必要に応じた消火器の設置

火災救急は
119番へ

広報紙三百号に寄せて

県知事 金 丸 三 郎



阿久根市の広報紙が、三百号を
むかえられたようですが、毎月一
号発行したとしてちょうど二十五
年間、昭和二十二年のすぐから、
一月も欠かさず発行された計算に
なりましょうか。市町村で、まだ
他にも、こういった例があるかと
うかは存じませんが、これはなか
なかのことではありません。大
いに敬服している次第でありま
す。

戦後における地方自治の大きい
特色としまして、他の分野でもい
ろいろありましようが、住民自治
の原則に立つ広報という考え方が
非常に重視されるということも、
その一つにあてがえようと思いま
す。戦後の、自治二十数年の歩み
は、そのまま広報の歩みであった
といってもよいのではないでしょ

うか。こんにちほど、住民の協力
を得るため、広報が充実されつつ
ある時代はないと思います。

私は、かねがね、広報は、一つ
には施策の周知徹底であり、もう
一つには、広い意味の教育である
と考えるものでありますが、特に
過疎の進んでおります地方にあつ
ては、それに対処する何んらかの
地域開発を考えていない首長さん
はおられないだろうと思います。

この開発の進展に、広報こそは、
なくてはならないものと考えているので
あります。

私は、以前にも引用したことが
ありますが、封建色が、どこより
強かったと思われるわが薩摩
時代に、広報が重要なものとして
とりあげられている例をお伝えし
たいのであります。

皆さんご承知の島津日新公は、

三州を統一する偉業をなしとげた
人で、薩摩中興の祖と、地元であ
がめられていますが、日新公は、
統一後の三州を治めるのに文教を
もってし、長い戦乱で地におちた
道義を、教育で興そうとされたお
けであります。「いろは歌」は、
教えのもとになることから、歌
に託されたものですが、その中の
一つに「もろもろの、国のところ
の政道は、人にまますよく、教えな
らわせ」というのがあります。

私は、日新公が「いろは歌」を
つくり、大いに住民の教育に心が
けられたと同時に、「民はよらし
むべし、知らしむべからず」の時
代に、「民によく教えならわせる
」という考えを持っておられたこ
とに、何かしら、大きい喜びを
感ずるのであります。

つい余談になったかとも思いま
すが、今後とも、大事な広報活動
を一そう発展せられ、住民参加に
よる地方自治の、一そうの向上に
努力されるようお願いいたす次第
であります。

“成人の日”

十五日は「成人の日」です。
おとなになったことを自覚して
みずから生きぬこうとする青年
を祝ひ助ます国民の祝日です。

ことし成人になられるかたは
昭和二十六年四月二日から昭和
二十七年四月一日まで生まれた

などすべてにわたって未成年者
のときのような法律上の保護者
は成年者には取り去られ、自分
の責任と判断で行動することが
要求されます。

成人式

身を飾る
より
心を飾ろう



かたがたです。

民法第三条は「満二十歳を以
て成年トス」と定めてあるとお
り、法律上独立の社会人として
の地位を獲得します。

まず、選挙権が与えられ、政
治に参加する機会が得られま
す。また、財産関係や身分関係

成人の日の祝い電報は

成人式の日の祝電をおうちに
なるかたは、配達日時指定電報
配達日の十日前から発信できる
ものをご利用されるか、または
前日(一月十四日)に、おうち
にいただきますようお願いいたし
ます。

(電報電話局)

ことしこそは……



夢と希望の魅力あるまちづくり

企業誘致も積極的に

「市民総和と総前進」を旗印に市勢発展のための基盤整備は着々と進み市内には新しいいぶきが始まりました。しかし、過疎農政問題、地域産業育成の問題など市政の前途には新たな課題も浮かんできています。これらを乗り切り「二十年後の阿久根」をめざして、阿久根はどのように発展するだろうか。新年にあたり「ことしこそは」こうなる。阿久根の新年にかける抱負を語ってもらいました。(敬称略)

丹宗忠(阿久根市長)・森哲雄(電報電話局長)・増永勤三(黒之瀬戸架橋工事事務所所長)・伊庄吉(商工会議所会頭)・中村藤吉(阿久根駅長)・松元茂夫(九州皮革工業株式会社代表取締役)・長瀬弘(建設省鹿児島国道工事事務所阿久根維持出張所所長)



増永 勤三

地区民の長い間の願望であった本土と長島を結ぶ「黒之瀬戸大橋」は、いよいよことしから架橋工事にとりかかることになりました。

橋は黒之瀬戸の一番狭い黒之浜堤折岸と東町火之浦を結ぶ所に、天草五橋の第一号橋と同型の連続トラス式の橋がかかります。

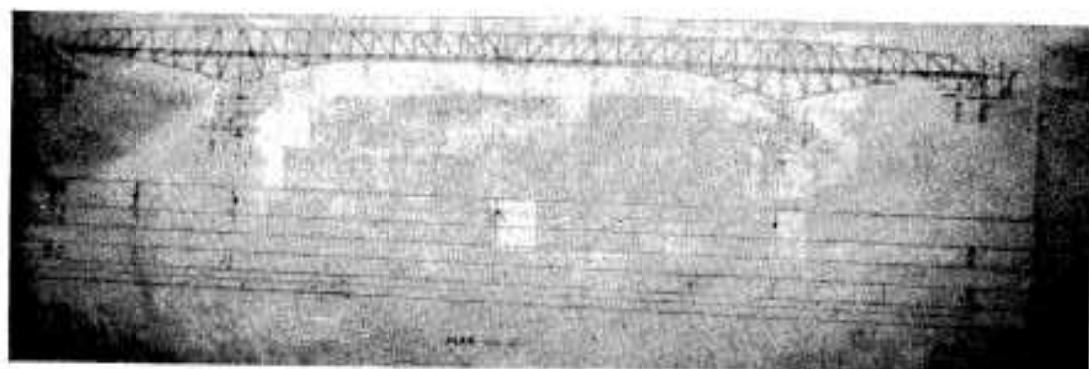
総延長は五百二四、車道六四(全幅八・六四)で海面から約二十九尺の高さ。同岸からそれぞれ

百尺の海中に橋脚が二か所設置され、橋脚間の距りは三百尺となります。

工事は二月中旬から、橋台二つと橋脚二つの作業にとりかかります。橋脚は橋軸方向に十尺、直角方向に二十尺、高さ十尺、重量五百トンの小判型で、潮流六ノット、波高三尺に耐えるだけのものです。橋脚の基礎には型枠をはめ、その中に鉄材を入れ、セメント、砂利を注入するプレバトコンクリート方式が用いられます。

これを六百トンのクレーン船につるして深さ十四尺のところにすえつける作業をします。

クレーン船の腕は六十尺あり、橋のかかるところは長島に送電し



架橋はこんな型になります



伊 庄 吉

観光開発に“力”こぶ 商店街の受け入れ体制が課題

新しい新春を迎え、声を大にして実現の方向に一步でも近づけたのが、長崎県野母崎町との大型カーフェリーの問題です。市長さんのご協力でいただいたのは、核心にもふれたものにもっていき

ている高圧線が通っています。高圧線の高さは海面から一番低いところでも三十三センチ、潮流の早いところだけになかなか大変な作業になるものと予想されます。クレーン船にのりしてすえつける秋ごろが一番の見どころです。橋台は十月ごろまでには完成するものと思います。それと上部構造の連続トラス工事が四十八年の台風接近までには結合できるものと予想されます。

六百万が橋の完成までにはできることになっていきます。この架橋の完成により、いままで輸送時間の空費などが大きな障害になっていましたが、これもなくなり、経済振興は大幅に助長されるものと思います。それと観光的にも価値あるところとして一躍観光を浴びるものと期待されます。

※ ※

なく、これらの中継基地として、温泉開発、国民宿舎建設など一大レジャーセンター建設も進めてい

かたの要望にこたえ、全勢力をかためて進んでいくべきではないか。それと、商店街の受け入れ体制づくりも急務

になってくるのではないでしようか。

そうする

ことによつて若い後継者の足も止めることが

いくぶんできると思います。

また、小さくてもいいから公営の

ない企業誘致と健全娯楽の設備を数多くもつてくれることもいいと思

います。

ことは「太陽団」も開催さ

れます。団体の意識は、体育の祭典として、市民の体力向上、健康増進というねらいもあります。

市民一人一人が団体の意識を理解して、一丸となって明るいまちづくりを進め、まことのすみずみまできれいに市民運動や花いっぱい運動を展開していかなくては



のひる市街地

いけないと思います。全国から集まるお客さんに接するマナーをよくし、阿久根はよかった、もう一度ぜひいつてみたいという、阿久根のよさを知ってもらうためには絶好の良機だと思

います。

旧年中は想像だになかった水害に見舞われたにもかかわらず、力強く前進してこられた市民みなさんがたに希望のあるまちづくりを進めていきたいと思います。

四十七年度は意欲のある発展する一年でありたいと願ってやみません。

市民一人一人が団体の意識を理

解して、一丸となって明るいまち

づくりを進め、まことのすみずみ

まできれいに市民運動や花いっ

ぱい運動を展開していかなくては

「いつかい帳」

記帳の作文集

小、中学生を対象に「いつかい帳」記帳作文を募集します

●内容

児童が「いつかい帳」を記帳したこと反省を感じたこと。

記帳している間に体験したこと

たとえば、つければじめた動機

や苦心談、家族の協力のような発見した、むりやむだ。今後の抱負など

●原稿

①本文は、四百字詰原稿用紙三枚(千二百字)以内、なお、本文のほかに最近の記帳内容がわかる簡単な表を添えてもよい

②原稿は、コピーがとれるように濃い鉛筆か、黒ボールペンなどで書くこと。

③原稿には学校名、学年、氏名を書くこと。

④封筒の表紙に「いつかい帳」記帳作文と明記すること。

●締切

昭和四十七年二月十六日

●送り先

鹿児島市山下町十四の五十

県地方課内、鹿児島県警推進

委員会。

●審査および表彰

①審査は、県警推進委員会がい

脇本もちかぢか自動式電話に

見通し明るい電話事業



森 哲 雄

明けましておめでとうございませう。

旧年中は、電電公社事業に多大のご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

阿久根市の電話がダイヤル式になってから四年を経過しましたが、それまで約七百個の加入であった電話が現在では二千個加入を突破しています。

ただ、数のうえだけでなく以前の磁石式電話当時と比べますと格段の便利さであることはご承知のとおりです。

四十六年は、一般加入電話だけでも六百個を増設しましたが、このほか公衆電話の青電話や赤電話についても、年々増設を図っています。



便利になった公衆電話

ます。

これらの公衆電話は、交換手をおすことなく全国どこへでもダイヤル一つで自由に通話ができる自動即時方式の電話に取り替えるつあります。ご利用のかたがたに喜んでいただけるものと思っております。

また、大川・脇本地区については、同じ市内でありながら相互の通話が市外通話になっているというきわめて不便な電話となつていますが、この矛盾もいましばらくで全市内同一条件の自動式電話になる予定になっています。

このときは、いままでも申し込みされている全部のかたについて取り付けできる予定で計画を進めています。なお、両地区の普通加入区域を自動化する際に大幅な拡張をすることになっています。

これから一般加入電話のほかにも、米次、田代、弓木野などのように報話局との距離が遠い地区には、地域集約電話をできるだけ早い時期に設置して通話ができるように努力してまいりますので、いましばらくお待ちをお願いします。

以上のように、阿久根市の電話につきましても、新年度はより明るい年となりますので、市民のみなさんの電信電話事業について、ますますのご理解とご協力をお願いいたします。

ふりこ型電車が試運転

将来東京まで十時間



中村 藤 吉

市民のみなさん明けましておめでとうございませう。

まず、みなさんにお知らせしたいことは、山陽新幹線が開通し、東京まで約一時間短縮されるのと、博多新幹線(昭和五十年までには開通)開通のあかつきには、東京まで約十時間で行けるようになる

ということですが、

それと、ふりこ型の電車が試運転を開始する予定です。この電車は車体が揺れず、平たんでも、カーブでも同じ速度で走れます。いまの電車はカーブでは横揺れによって速度を落とすことになっていて、すのでそれだけ時間がかかることになっています。

このふりこ型の電車を運転するようになると鹿児島・阿久根間が約三十分短縮される予定です。そして、博多新幹線の開通と同時に運転する見込みで、乗りここちは

よく便利になり快適な旅ができるようになります。

たとえば、鹿児島から飛行機で東京までいくとしますと、阿久根・鹿児島間が約二時間、時間のろす、たいくう時間などを計算しますと博多新幹線の開通後には、ある程度対応できることになり、いま、特色が一日七往復、うち四往復が停車しています。残りの三往復を停車させるには平均的なお客の数になってくると思います。それには、地場産業の育成と遠洋漁業の開発と港の整備をするのと同時に、企業誘致と合わせて観光施設の充実と商店街の受け入れ体制いかによってはお客もふえると思います。と同時に駅を利用するお客もふえ、特急停車実現も可能になってくると思います。

利用客の多い正月、お盆などの時期には特急、急行をふやして迷惑のかからぬようにしていますが、お客さんがご存知でないことがあり、きせつの列車を利用するお客さんが多く、同じ列車に集中するため混雑し要望どおりできない場合がありますが、これは、臨時列車

(7頁へ)



国体もあと300日阿久根市はボクシング会場となる

酒酔いの手助け

酒酔い運転
事故のもと
「おじさんたち」に



日曜医さん

一月十六日

上野病院② 055 (本町)

喜多院② 0038 (大丸)

平 院② 40 (吉里)

一月二十三日

北国病院② 0016 (本町)

内山病院② 1551 (高松)

黒木病院② 200 (馬場)

一月三十日

堀切院② 0263 (高松)

田中院② 0533 (大丸)

石原院② 45 (橋東)

二月六日

中村院② 0015 (大丸)

山田院② 0420 (本町)

脇本診療所・脇本26 (下村)

二月十一日

阿久根内科② 0578 (琴平)

喜多院② 0038 (大丸)

浜之上院② 脇本13 (馬場)

二月十三日

上野病院② 055 (本町)

内山病院② 1551 (高松)

平 院② 40 (吉里)

国体もあと300日阿久根市はボクシング会場となる

災害復旧も3月には完成 折田小下に通学・通園道路



(6頁から)
車をご利用いただければ、じゅうぶん解決できると思います。
臨時列車の時間や区間、期間は駅に表示するとともに新聞、テレビなどにお知らせしていきますのでご利用ください。
国体もあと三百日たらずとなりましたが、親切丁寧なモットーに

阿久根はよかったなあという、あとに残るものにした。
そして、家族ぐるみ、部落ぐるみの慰安旅行にも積極的にご相談に応じ、快適な旅ができるようにしていきたい。
これからの便利で早い国鉄をご利用ください。



長 淵 弘

文化、経済の動脈である国道を維持管理しているのがわたくしたちの任務です。

阿久根市の国道延長は十八・七で、舗装は昭和三十九年に全線完成しています。

交通量は四年前と比較にならない

いほど増大し、黒之瀬戸架橋の取り付け道路いかによってはまだ増大すると思われれます。
昨年は未曾有の集中豪雨に見舞われ、決壊、がけくずれなど予想だになかった災害をこうむり、みなさんにご迷惑をおかけしましたが、これら、復旧作業も順調に進み、応急処置も含めて三月までには完成する見込みになっています。

子どもを交通事故から守るための通学、通園路設置も急いでいます。すでに西目地区はきよねん完成し、ことは、折多小から陳之尾川までと牛之浜ガード下から大川長迫入口までをそれぞれ完成することになっています。
これは、道路幅の関係で片側になります。じゅうぶん地域住民の意にそうものと思えます。
横断道橋も阿久根市は三橋、(出水・川内)で、通学、通園の主要橋として、子どもを交通事故から守ってくれています。これも、市長を中心とした地域のかたがたの積極的な協力がある



松 元 茂 夫

誘致企業の模範に

地域産業発展に尽力

つたからだと思えます。
黒之瀬戸架橋もいよいよことしから本格的な工事に取りかかるそうです。この架橋と国道に過ぎる取り付けいかによってはいっそう激増してくると思えます。これも、阿久根市の都市計画いかによって、市街地だけでも緩和されるものと期待しています。わたくしたちもみなさんがたが通りやすく、また、ドライバーのかたがたが運転しやすい、維持管理を進めてまいります。

扱いをはじめ、これからの大いはいのびる予定です。
靴の型はいろいろありますが、昔のように耐久性をおびた型のもはあまり好まれず、やはり、ファッション性をもったものが出てくるようです。
ことは、十四万足生産目標に市民一人一人が、この靴をはいてもらい、靴のよさというものをあじわってほしいです。
しかし、それは若い人かたが中心にならなくてはいいかと思えます。
ここ数年にいくつかの企業誘致がありましたが、このような工場をどんどん誘致し、若い人かたに希望と夢をもたせる魅力あるまちづくりが必要だと思えます。
それと、恵まれた大自然にはぐ

はたちになったら 国民年金へ加入を

成人の日おめでとうございませう。老後の生活と万一の事故にそなえて年金制度に加入することは二十歳になった日本国民の義務です。

わが国には、八つの公的年金制度(国民年金、厚生年金、船員保険、各種共済組合等)があります。なかでも国民年金と厚生年金が二大支柱となっています。

二十歳になった人で、他の公的年金制度に加入しているその奥さん、学生以外、すべて国民年金に加入しなければなりません。今日のよき日に、市役所国民年金係に加入届けを出してください。

また、サラリーマンの奥さんや学生などは、希望すれば加入できます。

国民年金は、毎月四百五十円の保険料を納めて、将来つぎのような年金給付を受けることになります。

①六十五歳から老齢年金。②ケガや病気で体が不自由になったとき障害年金。③不幸にして母子家庭になったときの母子年金。④両親をなくした子の遺児年金。⑤途中で厚生年金から国民年金に移行したような場合は老齢年金、その他母子年金、寡婦年金、死亡一時金などもあります。
三十五歳間に納める保険料の総額は、十三万五千円。これに對して六十五歳から受けられる老齢年金は、年額九万六千円。また、障害年金は、一年(五千四百円)かけて年十二万円(一級)支給されます。

くまれたまも、公害、スモッグのないまち、これを生かした観光開発と、地域産業の育成と健全職業の施設なども一つの方法だと思

います。
阿久根市は、国鉄鹿児島本線と国道三号線沿いにあり、非常に便利でありながら、一方では不便さ

人間尊重の政治を重点目標に

着実に進む「花いっぱい」



丹宗 忠

あります。
わたしの工場はほとんどトラック便で荷物を扱っていますが、東京、大阪からくるトラック便は大型は阿久根で積みおろしをしないため、鹿児島まで運んでいき、鹿児島から阿久根にはかの便で運送してくるため、時間的にずれ

があります。
これらを解消するためには、やはり、地場産業が栄えなくては解決できない問題だと思ひます。
市内の勝致企業でわたしの会社が一番古く他産業の発展として阿久根市発展をこい願っているのです。

年々人口が減り、出かせぎがふえています。これら過疎問題のきめは、観光、商業など地場産業の発展、それに公害のない工場誘致です。このようなだてを進めていきたいと思います。

黒之瀬戸架橋もいよいよ二月着工のはこびになります。観光にかける期待も大きいです。

九州を一九とする大型観光ルートは確立によって、阿久根はこれらの中継基地として、温泉開発、国民宿舎など一大レジャーセンターの建設などを進め、いまの自然を生かした、いまの姿をいつまでも維持していくことが急務だと思ひます。

阿久根をささえてきた一つの産業はもちろん農業だと思ひます。その農業については、選別化、米の生産調整など大きな問題があります。

そして、農業、水産業、それから今後最も伸びる観光、これらに開する商業などを発展させねばならない。

を進めながら、その地域に適した作物づくりを考えていかなければならない。

園々の農家が米をつくるか、畜産をやるか、果樹、園芸をとるかその労働力、資本力、土地条件などを考えて、急務急所にふれた対策を考えていきたいと思います。

その二つに農業があります。近年、所得水準の上昇とともに、水産物、とくに高級水産物に対する需要は増大しつつあります。

それには、沿岸漁業の選別と漁船の大型化をいかに進めるとともに

米作地帯はただつくるだけでなく、おいしい米をつくることだと思ひます。やはり、今後構造改善

をい



まちを花でつつむ花いっぱい

三月に大型冷凍冷蔵庫も完成する予定ですが、ここを最大限に利用して、計画的販売対策もできるようなり、少なくとも所得の増大がはかれると思ひます。
新港も四十八年度までには完成します。水産物の水揚げ施設も充実するとともに、大型フェリーも入航できるようになり、水産業商工、観光も大きく変わってくると思ひますので、これらの対策を積極的に進めていきたいと思います。
太陽団地もあと十カ月後にせまっています。

太陽団地を契機にはじめられた花いっぱい運動も、市民への関心が高まりつつあります。

花の庭、花のまちづくりを、市内全域に広めてゆくためには、市民一人一人が、積極的に関心、この運動にとり組むことが必要であります。

明るく住みよい郷土を築き、ゆたかな市民性を自らの手で育てあげていくうえで、花いっぱい運動の果たす役割は大きいと思ひます。

農業者年金に加入を

農業者年金には、五十以上の農業者（二十歳以上）または五十未満でも三十以上の農業者（年間労働力投入時間七百時間以上、二十歳以上）であれば加入できます。

たとえば、年金に二十年間加入して、六十歳になるまでに経費移譲（自作地については免渡すか、貸付けること。小作地については地主へ返還するか、第三者へ転貸すること。）すると一カ月の保険料金は、七百五十円で、二十年間の掛金は、十八万円納めることになります。

しかし、受給額は六十歳から六十四歳までは、八百円に二十歳を乗じた金額が一カ月の受給額になります。したがって、一年間の受給額は十九万二千円で、二十年間の保険料金は、一年間で納めていくことになります。

また、この人が七十歳まで生きたとすると、もらえる年金は百二十九万六千円となり、非常に有利な年金となっています。

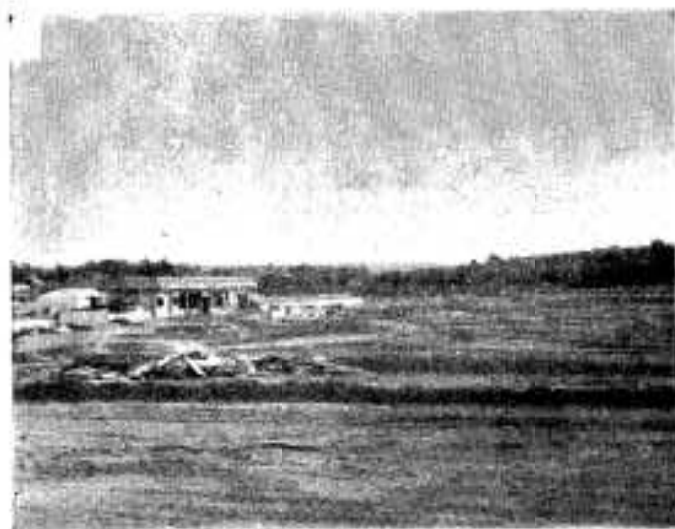
県では、昭和四十六年九月三十日現在で、六万七千二百人の加入予定者がいますが、このうち加入した人は、三万三千三百三十六人で加入予定者の四九・六割でありこの有利な制度がまだ知られていないようです。

まだ加入していない人は早め

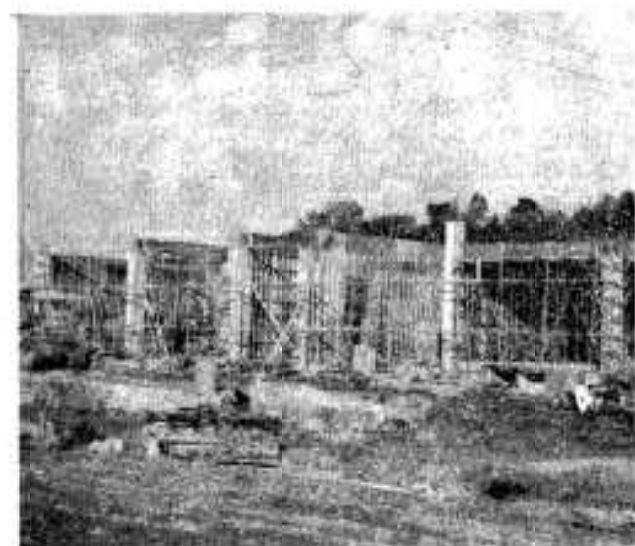
に農業協同組合で、加入手続きをとってください。そして、老後を安心して暮らしましょう。

をい

≡のびる郷土≡



△ 体カづくりのかっこうの場である
総合グラウンドも完成近い



△ 大型冷凍冷蔵庫三月に完成



△ 新港も着々と進む



△ ここにかかる黒之瀬戸大橋

▽ 市民から喜ばれるすぐやる係



図書館に善意の贈りもの —昭和9年阿小卒業生—



阿小運動会に出席した50歳組

昭和九年阿久根尋常科六年卒業生代表は、このほど、黒崎教育長を訪れ、市立図書館に図書購入の一部に活用して欲しいと一万円社会福祉協議会に一万円、母校に茶ダンス一組(二万四千円)をそれぞれ寄贈しました。

このかたがたは、いまの阿久根小学校を三十七年前卒業し、満五十歳になられたかたです。

恒例の阿久根小学校運動会(昨年十月十日)で、五十歳組のリレー競走に出場のため、九州をはじめ京阪神地方など全国から集った九十九人の同級生です。

当日は、小学二年生とリレー競走を行ない、健闘ぶりを発揮、ま

だまだ、子供には負けられないと意気にかえて大いにハッスル運動会に出場のもと、いままでもなくなった同級生約六十人の慰霊祭も行ない、ありし日の面影をしのびました。

この同級生の死は一部病死もありますが、そのほとんどが第二次世界大戦の犠牲者たちです。

また、ここまで教えみちびいてくださった、有馬常行先生外十人の恩師も参加され、旧交を深めました。

ここに一同の善意を紹介し、敬意を表します。

※

※

編集後記

ことしは「ネズミ年」害獣とされる反面、神聖な動物ともみられており、十二支の子はネズミでこの日を縁日とする大黒天のお使いは白ネズミとされ、農家では平日でも尊重するところもあり、正月にはネズミのもち、ネズミの年玉といつて、もちを供える風習もあるなど、ネズミに関する伝承、民話は全国的に多い。

ネズミは繁殖力もおおせいで妊娠約二十一日、一腹八〜九子子ネズミは約三週間で妊娠するといふ。

太陽の子運動も軌道に乗りつつあり、第三子には児童手当を支給する制度もでき、次代を背負って立つ丈夫な子どもを育みたいもの。

広報紙も昭和二十四年「ちやうせい」を発刊以来満二十二年三百号を発刊する記念すべき年のはじめにあたり、先輩が歩み来た過去の苦難の道がしのばれて、ひとしお感激を新たにしているものがあります。

とともに、市民と手と手を結ぶパイプ機関として少なくとも貢献してきたと思う。

これからも、みなさんの親しめる広報紙として、編集部一同大いにはりきっていきます。みなさんのご意見、ご希望をお寄せくださいまして、みなさんとともに歩いていきたいと思っております。

☆人命尊重と順法の精神に徹して交通事故をなくしましょう。

☆郷土の自然を守り、花とみどりの美しい町づくりにつとめましょう。

☆ちらさない、よごさない、こわさない運動を推進しましょう。

☆明るい町づくりをするために、生活環境の整備とあたたかい人間関係をつくりましょう。

☆社会を明るくするために、いつも笑顔で自分から先にあいさつをしましょう。

☆市民の健康をたかめるために、環境衛生の改善につとめましょう。

☆市民と子と心身ともにたくましい青少年を育てましょう。

☆親と子の話し合いを深め、明るく健全な家庭づくりにつとめましょう。

阿久根市新生活運動推進協議会